

未来寄合

出会い・ふれあい・語り合い
～みらいよりあい～

R7 北小校区
トライアル 5

11月22日（土）の午前中、くすのきの家で今シーズン5回目となる「未来寄合トライアル（北小校区）」を開催。参加者は、ゲストと市民参加者、事務局スタッフを含めて33名でした。

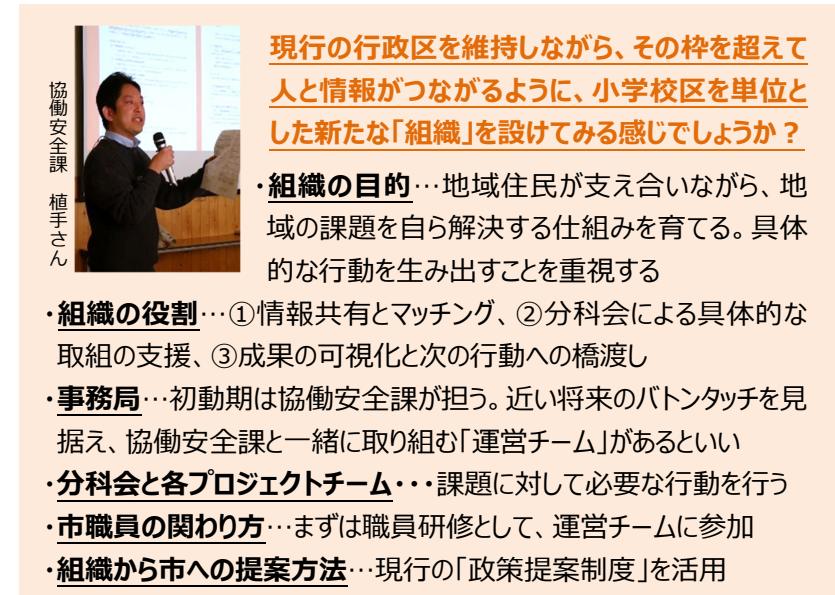
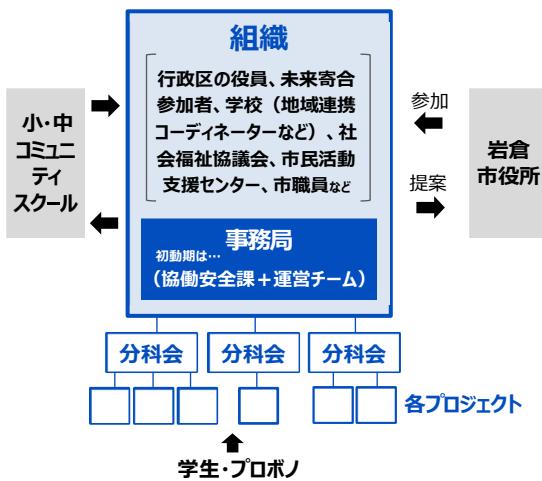
最終回となったこの日、これまでの北小校区の未来寄合を踏まえて事務局が作成した「持続可能な地域のあり方（仕組みや組織）」の試案について説明を聞いたあと、6グループに分かれ、試案の「■ここはイイネ！」「■こうしたらもっと良くなるかも！」をふせんに書きだして、意見交換。最後に、グループごとの改善案をまとめて全体で発表・共有しました。熱気あふれる素敵な節目の会になりました！



テーマ：持続可能な地域って？～地域のあり方検討②

1. フィードバック「持続可能な地域のあり方(案)ってこんな感じ？」

新たな組織・仕組み（試案）のイメージ



2. グループワーク 「地域のあり方検討②」

※ (○) = ○グループからの提案

■組織の目的…

- ・協力し合うことによって、できないことをできるようになることが目的 (D)

■役割…

- ・地域課題の吸い上げをする組織に (B)



■構成メンバー…

- ・行政区との関わりをどうするか (B)
- ・小・中との関わりに加えて、高校生や幼稚園・保育園の保護者なども加えたい。働いている世代、子育て世代も気軽に参加できる環境づくりが大事 (E)
- ・市内の企業・事業所に関わってもらえるといい (B)
- ・コミュニティスクールとの連携のためには、教育委員会にも関わってもらいたい (B)
- ・役はつくらず、サポーター制で、できることをできる人が行う (D)
- ・構成メンバーは、コアメンバーに加えて自由に参加でき、やれることは、やりたいことを表明できる場があるといい (A)
- ・やれる人・やりたい人を、組織に外部連携された人材バンクに登録し、市民活動支援センターが主導でマッチングしたら？ (A)



■分科会・プロジェクト…

- ・負担を減らす工夫を（E）
- ・年代別にふれあえる場をつくる。清掃以外にも意欲的に取り組める活動の推進。顔が見える関係づくり（F）
- ・高校・大学生になる前に、地域への関心を深める（C）
- ・子ども会のあり方についての分科会、子ども会の良さを伝えるプロジェクト（D）
- ・スマホで登録など、気軽にできる人材バンク（D）
- ・中学生～大学生のサポーター（D）
- ・チラシ作成・周知のサポートがほしい（F）

■事務局…

- ・運営はオンライン会議などで参加の負担を下げたい（E）
 - ・運営チームは有償か無償か？（F）
 - ・協働安全課だけでなく、いろんな課の参加を（E・B）
 - ・「事務局」⇒柔軟な名称にしたい（F）
- ## ■その他、組織について…
- ・資金面を確保する「稼ぐ仕組み」があるといい（E）
 - ・集まることのできる「場所」、「拠点」があるといい（B）
 - ・「現行の行政区を維持」しなくとも、形は変えていいのでは（E）
 - ・現行組織にこだわらず、気軽に参加できる形に変えていく（F）

チーム

A

小学校区単位の仕組みは、他市町でもやつていて一長一短ある。

やれる人・やりたい人を市の人才バンクとして登録してもらい、市民活動支援センター主導でマッチングしたらどうか？



チーム

B

コミュニティスクールの活動そのものが、学校を核として地域を育てていこうという活動。学校との連携のためには教育委員会にも関わってもらいたい。
住民が楽しく主体的に関わることが基本！



チーム

C

事務局が提示してくれたベース案は素晴らしい！あとはやれるかどうか。やらなきゃいけない！
中高生を含めた子どもたちのサポートをしていく上で、地域のコミュニティをつくりていきたい。



チーム

D

できないことをできるようにするために、みんなで知恵を出し協力し合おうというのが組織の役割。

事務局は役をつけずサポート体制にし、できる人ができる事をしたらどうか。

分科会では、「新」子ども会のあり方を考えたい。



チーム

E

現行の行政区の形も変えていいのでは？
働いてる世代、小さな子がいる家族も気軽に参加できる雰囲気、環境をつくる必要がある。事務局運営やプロジェクトも負担を減らす工夫が必要！
稼ぐ仕組みもほしい。



チーム

F

失敗しても間違ってもまずやってみよう！ということが大事。熱意があれば、こういう組織は回っていく。意欲が大事！！
組織にこだわらず、気軽に参加できる形に組織を発展させ、祭り文化の継承もしていきたい。



ひとこと
アンケート
より

熱のある議論ができ、良かった／地域のために熱く真剣な方がおられ、刺激を多く受けました／新たな組織体の試案を出していたことで、視覚化され、話が進めやすかったです／とにかくやってみよう、の考え方がいいなと思いました／固定の枠組みにとらわれない組織づくりが必要だと思いました／行政区が大切に守っていきたい役割を持続させるためにも、小学校区単位で一緒にやった方がいいことを仕分けして！ ほか

本日はこれまでにいただいたご意見をふまえ、協働安全課で何度も検討を重ねたうえで「試案」をお示しさせていただきました。

何分まだやったことないことなので不安はあります
が、今日いただいた「失敗してもいい、気楽にやればいい」というご意見のように、あまり高い壁をつくるな
いでみなさんと共にやっていけるのが理想。有機的に柔軟に進めていかなければいいなと思っています。

たくさん貴重なご意見をいただいたので、それらを踏まえて最終的な案をつくり、またみなさんにお示しながら進めていければ、と考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。



協働安全課
竹井課長

岩倉市役所 協働安全課（須藤・植手）

TEL (0587) 38-5803

FAX (0587) 66-6380

✉ kyoudouanzen@city.iwakura.lg.jp